

## 在宅医療地域ケア通信

在宅

## 医療と介護の今

## 今号の主な内容

- 普及するか、便利な「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」— 7圏域で事業所そろう…………… 1面～3面
- こんなとき、短期間の入院ができます — 在宅療養者用の「後方支援病床」…………… 3面
- 共通テーマから多様な課題について話し合う — 令和元年度の第1回在宅医療地域ケア会議…………… 4面

## ■ 普及するか、便利な「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」—7圏域で事業所そろう

必要な時に利用回数を問わず定額で柔軟に利用できる「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービス（以下「定期巡回」）。2012年4月に導入された地域密着型サービスの一つですが、今年4月に区内で7つ目の事業所が開設され、7つの全圏域でサービス提供が可能になりました。介護人材の不足しがちな時代にもマッチするといわれるサービスでありながら、ケアマネジャー（以下「ケアマネ」）を含め認知度が低いのが課題のようです。「杉並定期巡回連絡会」の代表、戸嶋哉寿男さん（ウォームハート代表）にサービスの現状や事例について聞きました。

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」：要介護1～5で利用できる介護保険サービス。ヘルパーや看護師が1回15～20分程度の訪問を一日に数回行い、食事や排泄、入浴などの介助や療養の世話をする定期巡回と、通報すれば24時間、電話での対応やスタッフの訪問が受けられる随時対応を組み合わせたもの。訪問回数によらず、月決めの定額である点が通常の訪問介護や訪問看護とは大きく異なる。なお、通常の訪問介護、訪問看護及び夜間対応型訪問介護とは併用できない。また、事業所には、訪問介護と訪問看護の両方を一つの事業所が提供する「訪問看護一体型」と、訪問介護を提供する事業者が他の訪問看護を提供する事業者と連携して行う「訪問看護連携型」の2つのタイプがある。

—— このサービスはどのような人が利用するとよいか？

戸嶋 例えば、①退院したばかりで生活のリズムが安定していない方。支援が必要なタイミングをアセスメントするために、1日に何度も訪問して様子を見る。また、②通常の介護はそれほど必要なくても、独居や高齢者のみの世帯で、安否確認や転倒等に備えて随時対応が必要な方。③家族が同居でも、就労などの理由で介護できない日や時間帯がある家庭。④がん末期の看取りにも向いている。急激に体調が悪化することがあるので、通常の訪問介護では間に合わない。定期巡回なら、急な変化にも柔軟に対応できる。



杉並定期巡回連絡会で発言する戸嶋さん（右列奥）

—— ウォームハート上井草では、どんな人が利用しているか？

戸嶋 男女比は半々くらいで、80代が多い。要介護4、5の人が多いが、要介護1で服薬確認のためだけに利用している人もいます。随時対応があると心強いからでしょう。10名前後の利用者のうち、半数が独居の方。同居家族がいる利用者の中には、家族が介護離職していたけれど、定期巡回を利用するようになって仕事に復帰できたというケースもある。

—— 巡回の頻度や介助の内容はどのように決まる？

戸嶋 介護保険なので、本人のニーズと目標に沿ったケアプランに基づくが、訪問の頻度や内容については、通常の訪問介護とは異なり、提供する事業者任せられている。利用者のできること・できないこと、家族のできること・できないことをアセスメントして、計画作成責任者が決めていく。例えば、自分で食べることができるのであれば、配膳のためだけに巡回したり、配膳までやってくれる配食サービスに頼んで、ヘルパーは食べ終わった頃に訪問して、食膳の片づけと服薬、排泄を介助する。滞在時間は15分程度、トラブルがあってもせいぜい30分。滞在時間も弾力的なら、訪問時刻もおおよその時刻を決めるだけで、ヘルパーが個々の利用者に柔軟に対応しながら回れるようにしておく。また、必要に応じてスケジュールにない訪問をすることもある。例えば、ヘルパーが今日は暑いから注意が必要と判断したら、巡回の合間にちょっと立ち寄り、水分補給とエアコンチェックだけをする。利用者によっては暑くてもエアコンをすぐに切ってしまうこともあるから。サービスの提供を自転車で行ける範囲に限定しているため、ヘルパーも機敏に動くことができる。

—— 定額サービスであるため、利用者や家族が依存しているいろいろな頼んでくる場合があると以前（同通信8号参照）

は聞いたが？

戸嶋 最近は、サービスを開始する前に利用者に説明して、理解が得られてから開始するようにしているので、そうした問題はあまりなくなった。ケアマネの認識が変わってきたことも大きい。ケアマネが最初に利用者にサービスを紹介する時に、趣旨を正しく話してくれるようになったので、理解が得やすい。

—— 24時間対応であることから人材確保の難しさは？

戸嶋 実際には夜中に電話がかかってくることはあまりないので、夜勤の負担は大きくはない。それより、人材育成が課題。現場では、自分で判断して行動する能力が求められるため、経験値が低いと難しい。ウォームハートの場合、通常の訪問介護を担当しているスタッフは45人いるが、定期巡回も兼任しているのは今のところは3分の1程度。今後も兼任できるスタッフを増やしていきたい。

—— 看護師や医師との連携はどのように？

戸嶋 ウォームハートは「訪問看護連携型」で、13の訪問看護ステーションと連携している。昨年くらいから、完全非公開型医療介護専用SNSが浸透してきて、スマホで簡単に多職種で情報共有ができるようになった。例えば、皮膚疾患を見つけたヘルパーが患部を撮って写真をアップロードすると、それを見た医師が薬を処方し、看護師がヘルパーに指示を出す、といった迅速な連携が可能だ。また、通常の訪問介護だと、ヘルパーと看護師の間をケアマネが仲介するが、定期巡回では直接連絡し合うので、ヘルパーは看護師から医療について教わる機会が多く、勉強になっている。

—— 現在の課題は？

戸嶋 最大の課題はまだまだ認知度が低いこと。隠れたニーズはたくさんあると思うが、ケアプランに組み込まれなければ利用できない。もっとケアマネや看護師に知ってもらうため、全区対象のセミナーを7月に連絡会主催で開催した。60人くらいが参加して、「サービスの趣旨が分かった」と好評を博した。参加者が担当している利用者でこのサービスが適応になると思われるケースも少なからずあることも分かった。今後は圏域ごとでも勉強会を開いていきたいと考えている。介護人材が不足して、高齢者家族も増える一方であることを考えると、一人のヘルパーが多くの利用者を担当できる定期巡回は、今後もっと普及させるべきサービスと思う。



ウォームハート上井草の事務所

## ●このサービスがないと仕事ができない

このサービスを実際に利用している方のご自宅へ伺って、話を聞いてみました。知的障害と胆管がんなどがある要介護5の女性（86）と、介護している姪のAさんの二人住まいの世帯です。区外の特別養護老人ホームに勤務しているAさんは、不規則な勤務シフトの合間で叔母の世話をしています。他の地域に住んでいるAさんのお姉さんも協力しています。

サービスを利用するようになったきっかけは今年5月の連休前、叔母が呼吸不全のため部屋で倒れ、荻窪病院に入院したことでした。約1カ月の入院の後、自宅へ戻る際にAさんが同病院の訪問看護を利用しようと相談すると、「ウォームハートさんの定期巡回を入れるといい」と紹介されました。

7月の退院と同時にサービスの利用が始まりました。Aさんやお姉さんが不在の日（週3～4日程度）には介護士が1日4～5回ほど入ります。看護師は本人の状態により週1～2回程度。介護は検温、食事やトイレの介助など、看護は服薬管理や酸素使用状況の確認、シャワー浴などを行います。

ほとんど顔を合わせることがない介護士・看護師等のコミュニケーションは「連絡ノート」で行います。お互いに



利用者さんに対応するスタッフ

水分をどれくらい摂った、着替えしたなど細かなことを情報共有します。

特養で介護の仕事をしているAさんでも、このサービスのことを知りませんでした。「このサービスがないと私はとても仕事を続けられません。通常の訪問介護だと週間プランで固定されてしまいますが、これだと介護が適宜必要なところに入ってくれます。それがとても助かっています」とAさんは実感を込めて話します。

「私はこのサービスの恩恵を受けていますが、このサービスを必要としている人はたくさんいると思います」。定期巡回・随時対応型訪問介護看護の一層の周知と活用が望まれます。

## ■こんなとき、短期間の入院ができます —在宅療養者用の「後方支援病床」

在宅で療養している人が急に脱水症状になったり、発熱などした時、一時的（10日間程度）に入院できる「後方支援病床」という制度があります。在宅療養を支援するためのもので、主治医が「一時的入院が必要」と判断した場合に、区内の※1協力病院が受け入れてくれます。

利用できるのは①杉並区在住で、医師（区外の医師でも可）の訪問診療か往診を受けている方②短期間の入院治療が必要で、治療したあとは在宅に戻る③退院後の在宅療養を主治医が責任を持ってフォローできる一です。

これまでの具体的な事例をみると、数日間腹痛と下痢、嘔吐の症状があり、食事や水分がまったく摂れない人、認知症による判断力の衰えなどで室温管理や水分補給ができず脱水傾向の人、身体状況が著しく低下し、食事や排せつ処理ができず、栄養状態や褥そうの悪化がみられる人などです。

主治医から区担当者（※2在宅医療相談調整窓口）に申し込みをします。これを受けて区担当者が協力病院に入院の調整をはかり、受け入れの病院が決まったらその旨を主治医に伝え、患者さんに入院の指示を出してもらいます。

※1 協力病院は荻窪病院（今川3丁目）、河北総合病院（阿佐谷北1丁目）、救世軍ブース記念病院（和田1丁目）、倭成病院（和田2丁目）、越川病院（上井草4丁目）、城西病院（上荻2丁目）、寺田病院（宮前5丁目）、東京衛生病院（天沼3丁目）、浜田山病院（浜田山4丁目）、山中病院（南荻窪1丁目）、浴風会病院（高井戸西1丁目）の11病院です。

### 在宅医療・生活支援センター

※2 在宅医療相談調整窓口 電話：3391-1380

## ■ 共通テーマから多様な課題について話し合う ―令和元年度の第1回在宅医療地域ケア会議

令和元年度の第1回在宅医療地域ケア会議は6月の西荻圏域を筆頭に、各圏域で開かれました（開催一覧を参照）。今年度の共通テーマは①入退院支援②日常の療養支援③急変時の対応④看取りーの中から選ぶことになっており、各圏域とも具体的なテーマ設定に工夫をし、さまざまな課題を取り上げました。

井草圏域は多職種による「服薬管理」がテーマです。処方された薬をきちんと飲まない患者さんは少なくありません。家族等が無理に飲ませようとすると、服薬への抵抗感を強めてしまったり、飲んでいないのに「飲んだ」と言い張ったりする弊害が生じます。

会議ではこうしたケースへの対応について、医師や薬剤師等から意見を聞きました。リーダー医師は「まずは本当に必要な薬だけを飲んでもらうこと。患者さんの状態によって、省ける薬はできるだけ省くことも必要」とアドバイス。ある医師は「訪問看護師とケアマネは在宅ケアのキープレーヤー。彼らを中心に残薬に気付いたら、その情報を多職種で共有し、対応することが大切です」と指摘しました。訪問看護師は「患者さんが薬を飲めないことが分かったら、まずは『飲みたくないですよ』と相手に共感し、『飲んでくれたら、私



井草圏域の在宅医療地域ケア会議



高井戸圏域の在宅医療地域ケア会議

たちもとてもうれしいです』と伝えるように努めています」と話し、患者の気持ちに寄り添うことが大切であることを訴えました。

高井戸圏域は「在宅療養者の緊急時の対応」がテーマ。「特に急変時の対応や看取りでは、医師側も課題や悩みを感じている」というリーダー医師の提起に沿ったものです。事前に企画運営委員が「緊急時の対応で困ること」についてケアマネ、訪問介護・看護、福祉用具の各分野から聞き取りを行い、その結果を参加者に配付して、情報を共有しました。

会議では「ケアマネが救急搬送や入院時に付き合わなければならないこともあり、その負担が大きい」「救急搬送について家族内で意思統一がされていない場合があり、対応に困る」「ケアマネが一番困るのは、医療職ではないので緊急かどうかの判断ができないこと」など多くの意見が出されました。「関係者による普段からの情報共有や連携が緊急時に活かされてくるのではないか」という認識が共有されたようです。

## ■ 令和元年度 第1回在宅医療地域ケア会議 開催一覧(開催順)

圏域名	開催日	テーマ
西荻	6月28日	みんなで対話しながら選ぼう、今年度の共通テーマ～杉並区の連携拠点各種と共有するお互いの現状・課題・想い～
方南・和泉	7月3日	退院支援における連携
高円寺	7月8日	知っていますか? すぎなみガイドライン ～医療と介護の連携ツール～
阿佐谷	7月24日	在宅での看取り1 ～リアルタイムな情報共有に向けて～
高井戸	7月24日	急変時の対応!! ～本人の意思を支援するためにはチームとして何が出来る?～
井草	8月21日	日常の療養支援 ～服薬管理を多職種連携で～
荻窪	9月5日	顔の見える関係づくりから信頼できる関係づくりへ ～日常の療養支援を考える～

★次号は令和元年12月発行予定です。